根室の未来を考える　令和5年度子ども会議
報告書

根室市教育委員会

根室市では、子どもたちの健全な成長に向けた取組の充実を図るため、平成２９年度より子ども会議を開催しています。

令和元年度からは根室高校演劇部も加わり、「ＳＮＳによるいじめ」をテーマとした劇を演じ、令和２年度は「コロナ禍における学校でのいじめ」、令和３年度はＳＤＧｓの１７の目標の内「５．ジェンダー平等を実現しよう」に関わり「ジェンダー平等で明るい学校生活を考える」を演題に、高校生の視点で演技を通じて表現いただきました。

また、「みんな違ってみんないい」の考え方をさらに広げることができるよう、令和４年度はＳＤＧｓの「１０．人や国の不平等をなくそう」に関わり、「『平等』な社会（学校生活）について考えよう」をテーマに「ほっこりとした心」をメッセージとして込めた劇を披露いただき、会議の中で協議を行いました。

協議の最後には全員で意見交流を行い、「ほっこりとした心」をもとに「違いを認め合う」の意識を高めることが大切であると全体で確認しました。

この「子ども会議」を通じて、いじめを防止やいじめが起きないような環境について、様々な視点から交流をしてきました。

本年度は、「インクルーシブな学校生活とは」をテーマに、小・中学生が中学校校区ごとのグループに分かれて交流を深め、根室高校演劇部の演劇を通して「手をさしのべる心さえあれば互いの違いが分かったり、それを認め合えることで心のつながり（心の握手）ができるよね」ということを提言していただきました。

この会議の内容を受けて、今後、各学校で児童会や生徒会活動、さらには授業などで話合いを進めるための機会になればと思っております。

Ⅰ．子ども会議の概要

（１）日　時　　令和５年１２月２５日（月）１０時００分～１２時００分
（２）場　所　　根室市総合文化会館　多目的ホール
（３）参加者　　市内小・中学校等の児童会・生徒会代表者36名、引率教諭１４名
　　根室高校演劇部　5名、引率教諭１名
（４）テーマ　　「インクルーシブな学校生活を考える」
（５）日　程　　10：00　～　10：10　開会式
　　10：10　～　10：50　動画鑑賞・グループ協議
　　10：50　～　11：40　根室高校演劇部発表・グループ協議
　　11：40　～　11：50　発表
　　11：50　～　12：00　閉会式

Ⅱ．実践発表・意見交流

「インクルーシブとは」と「インクルーシブな社会」の動画を鑑賞してから各グループごとに協議を行った結果、「インクルーシブ」については、「みんな何もかも同じではなく、違うところがあるので、互いを認め合い、親切にし合うこと」「それぞれの違いを否定せず、受け入れることが大切だと思った」等の意見が出されていた。「インクルーシブな社会」では、「一人が幸せではなく、助ける側も助けられる側も楽しく生きられるような社会」「障害を持っていても、仲良しの人がいれば町に行くのが楽しいと思う」「みんなが苦手な部分を補い合っていける社会」等の意見が出されていた。

【 出てきた主な意見 】

（インクルーシブ）	（インクルーシブな社会）
・どんな人でも快適に過ごせるようにすること ・できないことがあればともに助け合って凸凹を埋めていくことが大切だと思った。 ・みんな何もかも同じではなく、違うところがあるので、互いを認め合い、親切にし合うこと。 ・一人一人が相手を尊重することが大切であり、そのためには認め合うことが必要。 ・理解を得ることと実現するには難しいと感じた。 ・それぞれの違いを否定せず、受け入れることが大切だと思った。 ・みんなで助け合って、仲間はずれがないようにする。 ・障がいや国籍、性別など関係なく、みんなで認め合い、助け合うことが大切。 ・一人でできないことは、みんなで協力すれば何でもできる ・人と違っていても、それぞれが得意な分野が生かされるとよい ・平等・公平ということについて考え、認め合えなくても平等に暮らせることが大切。 ・インクルーシブを受け入れられない人もいるかもしれない。その輪の中に入れてない人はいないかな ・自分の周りの人たちと違う人がいても、仲良くしたり、自分ができないところを相手に助けてもらったりと助け合うことが大切だと思った。	・みんな不便なく、気持ちのいい社会になると思うから、お互いの意見が大切。 ・一人が幸せではなく、助ける側も助けられる側も楽しく生きられるような社会 ・助ける側も一人で抱え込まず、できる人たちが集まって行動することが大切だと思った。 ・誰もが働きやすく過ごしやすい環境 ・みんなで協力し、互いに助け合える環境にすることが大切。 ・様々な視点から違いを否定するのではなく認め合って、共生社会を目指す。 ・障がいのある人、言語が違う人、誰もが暮らしやすい社会 ・誰もが差別される心配がない、障がいがあっても不便じゃない、安心して過ごせることが大切。 ・障がいをもっていても、仲良しの人がいれば町に行くのが楽しいと思う。 ・人種や性格や考え方などみんな違っても、いろいろな人がいていい。 ・みんなが苦手な部分を補い合っていける社会 ・障がいを持っていても関係なく、自由に暮らしていけるような社会を作っていきたい ・身近に障がいをもっている人がいる人は、差別を考えないんじゃないかと思った。なので、環境が大切だと思う。 ・障がいをもっていることで、普通の人とは違うと思うのではなく、同じだと思えるようにすることが大切。 ・障がいをもつ人ももたない人も、理解し合う世界がよいと思いました。

Ⅲ．根室高校演劇部

あらすじ

R3年度

ジェンダー平等差別のない社会「みんなちがってみんないい」

R4年度

人や国による差別をなくそう｢ほっこりとした気持ちを！」

【演劇部子ども会議の流れ】

①YouTube動画をみる

②演劇部による解釈

1)．前年度の公演をふりかえる「みんなちがってみんないい」
「ほっこりとしだ気持ちを！」

2）動画の内容を振り返る
「インクルーシブな学校生活を送るためにみんなだったらどんな対応する」
（仲間はずれにすることなく受け入れることができるかな？）

3）インクルーシブな社会をつくるためには・・・
「難しい問題､高校生の私たちにも難しいのに･･･小中学生はどうしたら…」
「さまざまな人種が増えてはきているが、
やはり自分と違うものはうけいれがたいという現実」
「実体験がなさすきるので、違いがなかなか受け入れられない」
「人種がどうとか関係ない」
「心がつながる（心の握手）ために手をさしのべていけたら」

4）　心がつながる（心の握手）ために手をさしのべることが大切！

③あいさつして終了

※できたら状況が複雑な生徒が転校してきて
どう対応するか、どういう気持ちで接したらいいか
そんな寸劇をしたいのですが、いかがでしょう。
・どんな人でも受け入れる（手をさしのべるこころ）
・互いを尊重し合う（それがインクルーシブな社会（学校生活））

【演劇を通しての演劇部の主張】

LGBTQ、人種、国籍、障害を抱えている人と「俺ら一人ひとりがその人のことを理解してつながるために『手を差し伸べる』気持ちが大事！最終的には、心がつながる『心の握手』、このこと」を主張する。

【交流結果】演劇鑑賞後の交流発表

根室高校の演劇発表とメッセージを受けて、子ども会議のメンバーは、「どんな人でも分かり合えば仲良くなれるのだと思った」「実際にも起こりそうな話で、その時に不自由な人はみんなが手を差し伸べるという大切なことが分かって勉強になった」「誰にも苦手なことはある。できないことに対して口を出さず、できないことを理解してあげることが大切」「互いに認め合い、不自由さを助け、自ら手を差し伸べるなど、心でつながることが大切だと思った」等の意見が出された。高校生のメッセージは十分に伝わっていた。

Ⅳ．グループ発表

「インクルーシブな過ごしやすい学校」についての各グループ発表では、「偏見をもたず、みんなで助け合う気持ちが大切。お互いの困っていることを知らないといけないから、一人で考えずみんなで考えることが必要」「過ごしやすい学校にするためには、一人ひとりを受け入れ、理解するとともに、『インクルーシブ』について、みんな理解することが必要だと思う」「固定概念をなくし、一人ひとりの違いを認め合う気持ちをみんなが持つことが大切だと思った」「自分と違うものはおかしいと思うのではなく、それを尊重できることが必要」等の意見が各グループから発表された。

【 出てきた主な意見 】

（ 根室高校の演劇を鑑賞して感じたことをまとめよう ）	（ インクルーシブな過ごしやすい学校 ）
・インクルーシブは不自由な障がいがある人でも、周りの人と手を取り合っていけば関係ないと思いました。 ・やっぱり環境って大切だと思った。周りがこんなに受け入れてくれる人が多かったら実現できるかも。 ・これからどんな人たちに会うかわからないけど、今日学んだことを生かし、接したり助け合っていきたいと思った。 ・どんな人でも手を差し伸べれば誰もが同じように暮らせる。 ・障がいのことを知りたいと思ったし、障害をもっている人と関わる経験がなくても考えてみたいと思った。 ・どんな人でも分かり合えれば仲良くなれるんだと思った。 ・実際にも起こりそうな話で、その時に不自由な人はみんなが手を差し伸べるという大切なことがわかって勉強になりました。 ・車いすの人でも、やさしくしてあげる人がいてよかった。 ・国の違いや性別の違い、名前が珍しくてもいじったりしない、認めて優しく接するのがいいと思いました。 ・障がいをもって人は不安だと思う。だから手を差し伸べ助けてあげることが大切。 ・相手のことを考えて、思いやりの心をもつことでよりよい生活になると思う。 ・誰にでも苦手なことはある。できないことに対して口を出さず、できないことを理解してあげることが大切。 ・相手に興味をもつこと、相手の気持ちを考えることを自分からすることが大切。 ・互いに認め合い、不自由さを助け、自ら手を差し伸べるなど、心でつながることが大切だと思った。 ・人によって違うところがたくさんあるから、全部が全部分かり合えるわけではないけど、いろんな人に出会ったときにその人をたくさんわかることができたらいいなと思いました。たくさんの人に出会うには、日本は狭いのかもしれないとも思いました。	・環境の工夫（エレベーター、点字ブロック、スライド式ドア等）が助けになると思いました。 ・偏見をもたず、みんなで助け合う気持ちが大切。お互いの困っていることを知らないといけないから、一人で考えずみんなで考えることが必要。 ・過ごしやすい学校にするためには、一人ひとりを受け入れ、理解するとともに、「インクルーシブ」について、みんな理解することが必要だと思う。 ・みんな同じであると認識し、関わりを深めることが大切。 ・みんなで受け入れあい、相手のことを知れば認め合えると思った。 ・みんなが過ごしやすくするために、それぞれの人に合わせたものを設置すればいいと思った。 ・固定概念をなくし、一人ひとりの違いを認め合う気持ちをみんなが持つことが大切だと思った。 ・自分と違うものはおかしいと思うのではなく、それを尊重できることが必要。 ・不自由だったり、困っている人がいたら手伝ってあげることができる学校 ・耳が聞こえづらい、手が不自由である、体が不自由であるという人に、すぐ手伝ってあげることができる学校。 ・不自由なこと、苦手なことがあれば、不安になる。安心させるための声掛けができるとよいと思う。 ・お互いのことを知る、お互いに考える、そして交流することで、平和な学校が作れると思う。 ・悩みや弱さを先生や友達に伝えられるような学校。 ・お互いに助け合う、みんなで一緒になど、行動に移せること。 ・周りとは違う人にあっても、思いやりや助け合いが大切。 ・何に対しても広く深く知ったり、考えたり、想像したりしないとインクルーシブは始まらないかもと思いました。 ・相手のことを考えるのであれば、まず相手のことを知らないといけないし、誰に対しても自分の物差しだけで物をはからないこと。

Ⅴ．まとめ

一昨年の「ジェンダー平等」では、「みんな違っていい」の考え方を広げよう。昨年度のテーマ「人や国の不平等をなくそう」では、「違いを認め合える心、ほっこりした心（あたたかいこころ）が必要」という考え方をみんなが持てるようになればとなりました。

本年度は、「インクルーシブな学校生活を考える」のテーマのもと、根室高校の演劇部の提言を受けて協議をした結果、過ごしやすい学校にするためには、「一人ひとりを受け入れ、理解するとともに、『インクルーシブ』について、みんなが理解すること」「固定概念をなくし、一人ひとりの違いを認め合う気持ちをみんなが持つこと」が大切という意見が大半を占めた。

また、根室高校の演劇部の主張にあるように、「手を差し伸べる」「心がつながる『心の握手』」が大切だということで一致した。「みんな違っていい」「ほっこりした心（あたたかいこころ）」「手を差し伸べる」「心の握手」をみんなが持ち続けることができれば「いじめ」「差別」「不平等」「偏見」という言葉が学校生活の中から消えるのではないかと思う。このことは「子ども会議」に参加した児童・生徒が真剣に話合いをした結果である。

Ⅵ．今後の対応

今年のテーマ「インクルーシブな学校生活を考える」も難しい内容ではあったが、根室高校の演劇部の発表のように「手を差し伸べる」「心の握手」という考え方を市内の小中学生、みんなが持てるようになればと考える。

根室市教育委員会は、「あっとほーむねむろ」のYouTubeチャンネルに根室高校演劇部の「インクルーシブな学校生活を考える」をYouTube動画にアップロードして、各学校で教科書代わりに活用し、児童生徒と話合いを進めてもらえればと考えている。